

令和5年度

事業報告書

自：令和 5年 4月 1日

至：令和 6年 3月31日

愛知県清須市春日新町95番地
社会福祉法人西春日井福社会
理事長 今村 達雄

事業運営

- 1 入所状況（定員80名 通年営業）
 - (1) 平均入所者数 78.8名（前年度 78.8名）
 - (2) 稼働率 98.5%（前年度 98.5%）
 - (3) 平均介護度 4.05（前年度 4.08）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 10回（夏祭り、餅つき大会、クリスマス会）
 - (2) 外出支援 1回（ドライブ）
 - (3) 食事関係 12回（バイキング、ゴールデンランチ、おせち料理）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 40回 延べ人数72名
 - (2) 内部研修 12回（事故防止、感染予防、腰痛予防）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 150回（業務改善会議、生活支援委員会、感染症予防委員会）
 - (2) 臨時会議・委員会 12回（介護事故ケース会議、感染症会議）

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 業務を円滑に遂行するために、排泄物品の取り扱い方法や排泄介助の時間を見直すことにより、効率的かつ安全に業務を行うことができました。また、委員会、会議で職員が主体的にマニュアルの更新に取り組むことにより、各職種の連携強化、意欲向上に努めました。(1-(1))
- (2) 安定した収入基盤確立のため、居宅ケアマネジャーや医療機関と連携し、入所者を確保することができました。また、アセスメント時において多職種と連携し、情報の共有を図り円滑に入退所ができるよう支援しました。(1-(3))
- (3) 身体拘束、虐待防止委員会が中心となり、職員のストレスチェックを実施し、職員自身の心身状況の把握に努めました。また、委員会において各部署の取り組み内容を発表することで、虐待防止の意識向上を図ることができました。(2-(3))
- (4) 入所時に身体状況の評価をすることで、褥瘡のリスク管理、スキンケアについて入所者個々の状況把握に努めました。また、クッションやエアマット使用者を一元化することで、可視性が高まり、入所者の状態変化に迅速に対応することができました。(2-(4))
- (5) ボランティアの受け入れや夏祭り・介護の日を開催することで、地域における中核的な役割を担うことができました。また、生活困窮者や要介護者の受け入れについても、行政機関や地域包括支援センターと積極的に連携を図りました。(3-(1))
- (6) 新人職員や技能実習生を対象とした勉強会を開催し、介護技術の標準化に努めました。また、適宜マニュアルの見直しを行うことにより、業務改善と良質なサービスの提供につなげました。(4-(1))
- (7) 各フロアが目標を立て、進捗管理を行うことで、フロア全体で目標達成に向けた意識向上に取り組みました。また、施設内研修では、介護事故や緊急、急変時に対応ができるよう、職員一人ひとりの知識や技術の向上に努めました。(4-(3))
- (8) 施設内研修、感染症委員会が中心となり、感染症発生時に迅速に対応できるよう、各フロアでのシミュレーションや物品確認を実施しました。また、災害時においては防災訓練を通じて、備蓄品の確認や通報訓練等、入所者及び職員の意識向上を図りました。(5-(1))
- (9) JLPT や介護福祉士を受験する技能実習生に対して、講師以外の職員も受験対策のサポート体制を構築しました。業務の取り組み内容に差が生じないように、チューターと指導員が積極的に情報共有をすることで、安心した学べる環境作りに努めました。(5-(2))

事業運営

- 1 利用状況（定員20名 通年営業）
 - (1) 平均利用者数 19.4名（前年度 19.0名）
 - (2) 稼働率 96.8%（前年度 94.9%）
 - (3) 平均介護度 3.51（前年度 3.12）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 10回（夏祭り、餅つき大会、クリスマス会）
 - (2) 外出支援 1回（ドライブ）
 - (3) 食事関係 12回（バイキング、ゴールデンランチ、おせち料理）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 40回 延べ人数72名
 - (2) 内部研修 12回（事故防止、感染予防、腰痛予防）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 150回（業務改善会議、生活支援委員会、感染症委員会）
 - (2) 臨時会議・委員会 12回（介護事故ケース会議、感染症会議）

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 業務を円滑に遂行するために、排泄物品の取り扱い方法や排泄介助の時間を見直すことにより、効率的かつ安全に業務を行うことができました。また、各委員会、会議で職員が主体的にマニュアル更新に取り組むことにより、各職種の連携強化、意欲向上に努めました。(1-(1))
- (2) 安定した収入基盤確立のため、居宅ケアマネジャー及び医療機関と連携し、利用者を確保することができました。また、アセスメント時において多職種と連携し、情報の共有を図ることで、円滑に入退所ができるよう支援しました。(1-(3))
- (3) 身体拘束、虐待防止委員会が中心となり、職員のストレスチェックを実施し、職員自身の心身状況の把握に努めました。また、委員会において各部署の取り組み内容を発表することで、虐待防止の意識向上を図ることができました。(2-(3))
- (4) 利用開始時に身体状況の評価をすることで、褥瘡のリスク管理、スキンケアについて利用者個々の状況把握に努めました。また、クッションやエアマット使用者を一元化することで、可視性が高まり、利用者の状態変化に迅速に対応することができました。(2-(4))
- (5) ボランティアの受け入れや夏祭り・介護の日を開催することで、地域における中核的な役割を担うことができました。また、生活困窮者や要介護者の受け入れについても、行政機関や地域包括支援センターと積極的に連携を図りました。(3-(1))
- (6) 新人職員や技能実習生を対象とした勉強会を開催し、介護技術の標準化に努めました。また、適宜マニュアルの見直しを行うことにより、業務改善と良質なサービスの提供につなげました。(4-(1))
- (7) 各フロアが目標を立て、進捗管理を行うことで、フロア全体で目標達成に向けた意識向上に取り組まれました。また、施設内研修では、介護事故や緊急、急変時に対応ができるよう、職員一人ひとりの知識や技術の向上に努めました。(4-(3))
- (8) 施設内研修、感染症委員会が中心となり、感染症発生時に迅速に対応できるよう各フロアでのシミュレーションや物品の確認を実施しました。また、災害時においては防災訓練を通じて、備蓄品の確認や通報訓練等、入所者及び職員の意識向上を図りました。(5-(1))
- (9) JLPT や介護福祉士を受験する技能実習生に対して、講師以外の職員も受験対策のサポート体制を構築しました。業務の取り組み内容に差が生じないように、チューターと指導員が積極的に情報共有をすることで安心した学べる環境作りに努めました。(5-(2))

事業運営

- 1 利用状況（定員30名 通年営業、年始2日を除く）
 - (1) 平均利用者数 27.9名（前年度 26.6名）
 - (2) 稼働率 92.9%（前年度 88.8%）
 - (3) 平均介護度 2.17（前年度 2.47）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 4回（夏祭り、クリスマス会、法人合同イベント）
 - (2) 外出支援 1回（雲太寺花祭り）
 - (3) 食事関係 28回（バイキング、グルメ祭り、ゴールデンランチ）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 1回 延べ人数1名
 - (2) 内部研修 12回（身体拘束・虐待、事故防止、感染シミュレーション）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 77回（デイ会議、生活支援委員会、感染症委員会）
 - (2) 臨時会議・委員会 0回（なし）

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 業務内容やサービス内容について、現状の課題並びに業務改善を会議で検討することで、業務改善、効率化を図りました。また、業務に要する時間を集計した結果をタイムスケジュールに反映することで、職員の働く環境整備に取り組みました。(1-(1))
- (2) 餅つき大会に居宅ケアマネジャーを招待し、利用中の様子やレクリエーション等の活動内容、作品などを発信しました。また、利用中の些細な変化や現状の課題などを居宅ケアマネジャーと連携することで、新規利用者数の増加を図りました。(1-(3))
- (3) 利用者のニーズに応え、選択レクリエーションの内容を随時更新することで、利用者の活動意欲を引き出し、活気あるレクリエーションが実施できました。また、運動会やおやつ作りを開催し、ADL認知機能の維持向上を図りました。(2-(1))
- (4) 帰宅願望や周辺症状のみられる認知症利用者への個別ケアプログラムを実施することで、安心安全なサービスが提供できました。また、個別機能訓練のメニューを多職種と連携し、見直しを行うことで、自立支援、重度化防止に取り組みました。(2-(3))
- (5) 毎月傾聴ボランティアを受け入れることで、利用者との交流、社会参加の促進に努めました。また、各行政機関と連携し、新規ボランティアを募集することで、地域社会の公益的な取り組みを担いました。(3-(1))
- (6) 行事企画において、全職員が役割を持つことで、積極的に行事に取り組むことができました。また、職員個々の能力が発揮できる体制を整備し、職員のモチベーションアップにつなげることで、働きやすい環境作りに努めました。(4-(3))
- (7) 毎月のデイ会議において、事例を用いた勉強会を開催することで、職員間の連携、サービスの質の向上、様々な利用者への対応力の強化等、より良い支援に結び付けることができました。(4-(4))
- (8) 感染症発生を想定したシミュレーションを実施することで、感染者が発生した際の職員の連携方法や家族への連絡体制の確認を行いました。また、感染対策や吐物処理方法を統一化することで、利用者が安心して利用できる体制を構築しました。(5-(1))
- (9) JLPT や介護福祉士を受験する技能実習生に対して、講師以外の職員も受験対策のサポート体制を構築しました。また、業務の取り組み内容に差が生じないように、チューターと指導員が積極的に情報共有をすることで、安心した学べる環境作りに努めました。(5-(2))

事業運営

1 入所状況（定員80名 通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均入所者数 | 78.2名 | （前年度 78.7名） |
| (2) 稼働率 | 97.8% | （前年度 98.4%） |
| (3) 平均介護度 | 3.93 | （前年度 4.02） |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|-----------------------|
| (1) 行事関係 | 27回 | （夏祭り、クリスマス会、節分） |
| (2) 外出支援 | 1回 | （花見） |
| (3) 食事関係 | 22回 | （昼食バイキング、敬老祝い膳、おせち料理） |

3 職員研修

- | | | |
|----------|-----|-----------------------|
| (1) 外部研修 | 10回 | 延べ人数20名 |
| (2) 内部研修 | 12回 | （感染症予防、緊急時急変時対応、褥瘡予防） |

4 各種会議・委員会

- | | | |
|--------------|------|-------------------|
| (1) 定例会議・委員会 | 178回 | （運営連絡、事故防止、虐待防止） |
| (2) 臨時会議・委員会 | 22回 | （感染症予防、介護事故ケース検討） |

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 生産性向上と業務効率化を目的として、リーダー職員以外の一般職員も提案や意見を発信できるプロジェクト委員会を立ち上げて活動しました。委員会では、職員からの意見ボックスに投函された現場の課題や問題点を抽出し、早急な改善方法を実施することにより、職員の参画意欲継続と生産性向上につながりました。(1-(1))
- (2) 安定した収入基盤の実現のため、入院者において長期入院が見込まれる場合の適切な退所の判断や、状態にあった要介護度の変更申請を適宜行いました。また、館内の節電対策では、プロジェクト委員会で作成した掲示物を、職員更衣室や休憩場所等に掲示し、全職員が意識して継続的な節電に取り組める仕組みを構築しました。(1-(3))
- (3) 良質な福祉サービスの提供のため、定期的にカンファレンスを開催し、多職種協働による入所者一人ひとりの意見を尊重したケアプランを作成しました。(2-(1))
- (4) 新人職員、技能実習生、その指導者となる一般職員側の業務標準化を実施するため、介護技術標準化リストを中心に教育できる体制を整えたことで、職場全体が介護技術のレベルアップを図ることができ、良質なサービスの提供につながりました。(2-(3))
- (5) 地域における公益的な取り組みとして、北名古屋市地域包括支援センターと協働で家族介護の集いを開催しました。介護方法に関する相談や介護ストレスの傾聴等により、地域福祉活動の一翼を担うことができました。(3-(1))
- (6) 各種会議、委員会の場で、現状の業務に関する課題や問題点を取り上げ、適宜業務マニュアルの見直しと更新を行い、統一した業務行動の実施につながりました。(4-(1))
- (7) 職場環境の保全のため、プロジェクト委員会において、各職員の提案や意見を施設運営に反映することで、職員の士気を高め、施設全体で職場環境の改善につながるボトムアップの仕組みを構築し、風通しのよい職場づくりにつながりました。(4-(3))
- (8) 新型コロナウイルス感染者の発生時に備え、適正量の感染防護用品を常備していたことから、迅速な対応ができました。また、研修会やシミュレーション訓練を適宜行うとともに、5類移行後には業務継続計画書を見直し、施設全体で共通の危機意識を持つことでクラスター発生時等には早期消息につながりました。(5-(1))
- (9) 技能実習計画書に基づき、実習指導者やチューター職員が中心になって、実習内容の目的や指導方針を共有することで、リーダー会議等で実習内容の進捗状況を確認し合うことができました。また、日々の業務の中で役職者が意識的に声掛けを行い、メンタルケアや生活面の対話を活発にして問題の早期解決を図り、安心して日本で生活できるように努めました。(5-(2))

事業運営

1 利用状況（定員20名 通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均入所者数 | 18.6名 | （前年度 16.7名） |
| (2) 稼働率 | 93.1% | （前年度 83.4%） |
| (3) 平均介護度 | 3.14 | （前年度 2.93） |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|-----------------------|
| (1) 行事関係 | 27回 | （夏祭り、クリスマス会、節分） |
| (2) 外出支援 | 1回 | （花見） |
| (3) 食事関係 | 22回 | （昼食バイキング、敬老祝い膳、おせち料理） |

3 職員研修

- | | | |
|----------|-----|-----------------------|
| (1) 外部研修 | 10回 | 延べ人数20名 |
| (2) 内部研修 | 12回 | （感染症予防、緊急時急変時対応、褥瘡予防） |

4 各種会議・委員会

- | | | |
|--------------|------|-------------------|
| (1) 定例会議・委員会 | 178回 | （運営連絡、事故防止、虐待防止） |
| (2) 臨時会議・委員会 | 22回 | （感染症予防、介護事故ケース検討） |

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 生産性向上と業務効率化を目的として、リーダー職員以外の一般職員も提案や意見を発信できる場としてプロジェクト委員会を立ち上げて活動しました。委員会では、職員からの意見ボックスに投函された現場の課題や問題点を抽出し、早急な改善方法を実施することにより、職員の参画意欲継続と生産性向上につなげました。(1-(1))
- (2) 積極的に医療依存度の高い重度の利用者を受け入れました。また、館内の節電対策では、プロジェクト委員会で作成した掲示物を、職員更衣室や休憩場所等に掲示し、全職員が意識して継続的な節電に取り組める仕組みを構築しました。(1-(3))
- (3) 利用時における総合的な支援内容について、利用者、家族、担当ケアマネジャーが協働で短期入所生活介護計画を作成することにより、利用者本位のサービス提供につなげました。(2-(1))
- (4) 新人職員、技能実習生、その指導者となる一般職員側の業務標準化を同時に実施するため、介護技術標準化リストを中心に教育できる体制を整えたことで、職場全体が介護技術のレベルアップを図ることができ、良質なサービスの提供につながりました。(2-(3))
- (5) 地域における公益的な取り組みとして、北名古屋市地域包括支援センターと協働で家族介護の集いを開催しました。介護方法に関する相談や介護ストレスの傾聴等により、地域福祉活動の一翼を担うことができました。(3-(1))
- (6) 各種会議、委員会の場で、現状の業務に関する課題や問題点を取り上げ、適宜業務マニュアルの見直しと更新したことで、統一した業務行動の実施につなげました。(4-(1))
- (7) 職場環境の保全のため、プロジェクト委員会にて、各職員の提案や意見を施設運営に反映することで、職員の士気を高め、施設全体で職場環境の改善につなげるボトムアップの仕組みを構築し、風通しのよい職場づくりにつなげました。(4-(3))
- (8) 新型コロナウイルス感染者の発生時に備え、適正量の感染防護用品を常備していたことから、迅速な対応ができました。また、研修会やシミュレーション訓練を適宜行うとともに、5類移行後には業務継続計画書を見直し、施設全体で共通の危機意識を持つことでクラスター発生時等には早期消息につながりました。(5-(1))
- (9) 技能実習計画書に基づき、実習指導者やチューター職員が中心になって、実習内容の目的や指導方針を共有することで、リーダー会議等で実習内容の進捗状況を確認し合うことができました。また、日々の業務の中で役職者が意識的に声掛けを行い、メンタルケアや生活面の対話を活発にして問題の早期解決を図り、安心して日本で生活できるように努めました。(5-(2))

事業運営

1 利用状況（定員30名 通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均利用者数 | 29.1名 | (前年度 28.8名) |
| (2) 稼働率 | 97.1% | (前年度 95.9%) |
| (3) 平均介護度 | 2.13 | (前年度 2.04) |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|---------------------------|
| (1) 行事関係 | 31回 | (風船バレーボール大会、夏祭り、合同イベント) |
| (2) 外出支援 | 1回 | (桜花見) |
| (3) 食事関係 | 17回 | (バイキング、季節の御膳、敬老祝い膳、おせち料理) |

3 職員研修

- | | | |
|----------|-----|---------------------|
| (1) 外部研修 | 8回 | 延べ人数11名 |
| (2) 内部研修 | 12回 | (感染症予防、防災訓練、ハラスメント) |

4 各種会議・委員会

- | | | |
|--------------|-----|----------------------------|
| (1) 定例会議・委員会 | 68回 | (運営連絡会議、デイサービス会議、感染症対策委員会) |
| (2) 臨時会議・委員会 | 5回 | (感染症予防) |

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) デイサービス会議において、職員が自由に討議することができる環境を整えたことにより、業務遂行に対する意欲向上につなげることができました。さらに、業務の効率化を観点にした検討を行うことで、業務負担の軽減、生産性の向上を図りました。(1-(1))
- (2) 安定した継続的なサービスを提供できるよう、利用者の要介護要件及び認知症利用者の割合を適宜確認しながら、各居宅支援事業所へ営業活動を実施しました。また、物品の節約等、適切な支出管理を行うことにより、安定した経営を行うことができました。(1-(3))
- (3) 日替わりで実施したカルチャー教室では、職員が講師を務めることで、利用者とのつながりを深めることができました。また、音楽療法や回想法、園芸療法等の多種多様なレクリエーションでは、各利用者の自己選択、自己決定を促進できる活動を行いました。(2-(1))
- (4) 利用者の在宅生活が継続できるよう、各利用者に必要なプログラムを立案し、個別機能訓練を実施することができました。また、家族や居宅支援事業所等と連携することで、利用が社会性を維持できるよう支援しました。(2-(3))
- (5) 地域における公益的な取り組みとして、北名古屋地域包括支援センターと協働で家族介護の集いを開催しました。介護方法に関する相談や介護ストレスの傾聴等により、地域福祉活動の一翼を担うことができました。(3-(1))
- (6) 各種会議、委員会の場で、現状の業務に関する課題や問題点を取り上げ、適宜業務マニュアルの見直しと更新を行うことで、統一した業務行動の実施につなげました。(4-(1))
- (7) 職場環境の保全のため、プロジェクト委員会にて、各職員の提案や意見を施設運営に反映することで、職員の士気を高め、施設全体で職場環境の改善につなげるボトムアップの仕組みを構築し、風通しのよい職場づくりにつなげました。(4-(3))
- (8) 感染症や災害に対する研修やシミュレーションに参加することで、緊急時に対する危機意識や対応方法について周知徹底をすることができました。また、マニュアルを適宜見直すことにより、事業運営が継続できる体制を整えました。(5-(1))

事業運営

- 1 入所状況（定員30名 通年営業）
 - (1) 平均入所者数 28.5名（前年度 29.1名）
 - (2) 稼働率 95.2%（前年度 97.1%）
 - (3) 平均要介護者数 14.3名（前年度 13.4名）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 10回（ゲーム大会、餅つき大会、敬老会）
 - (2) 外出支援 35回（ショッピング、外食ツアー、花見送迎）
 - (3) 食事関係 36回（モーニング、バイキング、敬老祝い御膳）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 1回 延べ人数1名
 - (2) 内部研修 12回（事故防止、防災訓練、感染対策）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 84回（感染対策、プロジェクト、事故防止）
 - (2) 臨時会議・委員会 10回（新型コロナウイルス感染対策）

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) ケアハウス会議では、各入所者の認知機能や身体機能の情報共有及び把握に努め、福祉サービスの質の向上のため、家族、担当ケアマネジャーと相談し、訪問看護や福祉用具等、自立した生活の継続に必要な居宅介護サービスに取り組みました。(1-(1))
- (2) 施設見学者の対応の際には、その方がケアハウスでどのような生活が送れるかを具体的に説明することで、入所後のイメージをしていただくことにより待機者確保に努めました。また、次期入所候補者については、あらかじめ複数名を選考しておくことにより、円滑な入退所につながりました。(1-(3))
- (3) コミュニケーションを活発にし、相談しやすい雰囲気作りに努めることで、生活の不安等に対し、適宜助言を行いました。また、定期的に入所者の希望に合わせた交流が図りやすいレクリエーション、各種クラブ活動を開催しました。(2-(1))
- (4) 各入所者の日常生活の様子を把握しながら、会議や委員会等で必要に応じた生活習慣の改善や支援方法について検討し、より良いサービス提供ができるように努めました。(2-(3))
- (5) 地域における公益的な取り組みとして、北名古屋市地域包括支援センターと協働で家族介護の集いを開催しました。介護方法に関する相談や介護ストレスの傾聴等により、地域福祉活動の一翼を担うことができました。(3-(1))
- (6) ケアハウス会議において、各種記録の様式、方法を統一することで、相談員と介護員が、それぞれの業務内容を把握することができようになり、業務の効率化につながることができました。(4-(1))
- (7) 職場環境の保全のためのプロジェクト委員会において、各職員の提案や意見を施設運営に反映することで、職員の士気を高め、施設全体で職場環境の改善につながるボトムアップの仕組みを構築するなど、風通しのよい職場づくりにつなげました。(4-(3))
- (8) 新型コロナウイルス感染者の発生時に備え、適正量の感染防護用品を常備していたことから、迅速な対応ができました。また、研修会やシミュレーション訓練を適宜行うとともに、5類移行後には業務継続計画書を見直し、施設全体で共通の危機意識を持つことで、クラスター発生時等には早期消息につなげました。(5-(1))

事業運営

- 1 入所状況（定員100名 通年営業）
 - (1) 平均入所者数 98.0名（前年度 96.6名）
 - (2) 稼働率 98.0%（前年度 96.6%）
 - (3) 平均介護度 3.84（前年度 3.94）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 17回（秋祭り、介護の日、餅つき）
 - (2) 外出支援 10回（東山動物園、愛・地球博記念公園、清洲城花見）
 - (3) 食事関係 15回（20周年創立記念御膳、敬老御膳、おせち）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 26回 延べ人数62名
 - (2) 内部研修 12回（ハラスメント予防、虐待防止、認知症ケア）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 130回（接遇、カンファレンス、身体拘束適正化）
 - (2) 臨時会議・委員会 14回（感染症予防、介護事故ケース検討）

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 生産性向上の観点から、離床センサーやナースコールといったICT機器を整備し、入所者の安心安全な生活の確保、職員の業務効率化等の負担軽減を図ることで、働きやすい職場づくりにつなげました。(1-(1))
- (2) 安定した事業運営を実現するため、適正なベッドコントロールによる収入の確保、並びに節電や節約による支出管理に努めました。(1-(3))
- (3) 適宜ケアカンファレンスを開催し、本人・家族を交えた多職種協働でケアプランを作成することで、面会や外出希望の実現等、個々の意向を尊重した入所者本位のサービスを提供することができました。(2-(1))
- (4) 各職員が入所者ごとのケアプラン内容を熟知することで、当該プランに沿った適切なサービスを提供しました。(2-(3))
- (5) 地域におけるセーフティネットとして、行政や各居宅介護支援事業所等の関連機関と連携し、緊急ケースの受け入れや介護保険サービスの相談に対応しました。また、秋祭りを開催し、学生やボランティアとの関係を維持できるよう努めました。(3-(1))
- (6) 全職員が統一された業務を遂行するため、各種委員会やチーム会議を計画どおり開催し、服薬や認知症ケアに関するマニュアルを再確認しました。(4-(1))
- (7) 組織目標をもとに職員一人ひとりが個人目標を設定し、定期的に面談の場を設けて進捗状況を確認することや、職員同士が交流できるレクリエーションを企画する等、職員間のコミュニケーションの活性化を図りました。(4-(3))
- (8) 感染症や災害等、不測の事態が発生した際、慌てず適切に行動できるよう定期的にシミュレーション訓練を実施しました。実施後には課題を見出し、その都度マニュアルを改訂することにより、対応能力の向上に努めました。(5-(1))
- (9) 技能実習生が各種研修や社会体験を通じて正しく技能を習得できるよう、生活指導員や技能指導員が中心となり育成を行いました。また、一定の技能を備えた特定技能実習生には、後輩の指導や教育を任せることで、さらなるレベルアップにも挑戦しました。(5-(2))

事業運営

- 1 利用状況（定員10名 通年営業）
 - (1) 平均利用者数 8.3名（前年度 8.6名）
 - (2) 稼働率 82.8%（前年度 85.8%）
 - (3) 平均介護度 3.00（前年度 2.65）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 17回（秋祭り、介護の日、餅つき）
 - (2) 外出支援 10回（東山動物園、愛・地球博記念公園、清洲城花見）
 - (3) 食事関係 15回（20周年創立記念御膳、敬老御膳、おせち）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 26回 延べ人数62名
 - (2) 内部研修 12回（ハラスメント予防、虐待防止、認知症ケア）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 118回（接遇、ユニット会議、身体拘束適正化）
 - (2) 臨時会議・委員会 14回（感染症予防、介護事故ケース検討）

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 生産性向上の観点から、離床センサーやナースコールといったICT機器を整備し、利用者の安心安全な生活の確保、職員の業務効率化等の負担軽減を図ることで、働きやすい職場づくりにつなげました。(1-(1))
- (2) 安定した事業運営を実現するため、適正なベッドコントロールによる収入の確保、並びに節電や節約による支出管理に努めました。(1-(3))
- (3) 担当者会議にて、本人・家族を交えたサービス計画書を作成することで、短期入所サービス利用中の生活が自宅での日課と乖離しないよう努め、各利用者が不安なく過ごすことができるよう支援しました。(2-(3))
- (4) 事故防止委員会を適宜開催し、ヒヤリハット報告や事故報告の分析により、同種の介護事故の再発防止に努めました。(2-(4))
- (5) 地域におけるセーフティネットとして、行政や各居宅介護支援事業所等の関連機関と連携し、緊急ケースの受け入れや介護保険サービスの相談に対応しました。また、秋祭りを開催し、学生やボランティアとの関係を維持できるよう努めました。(3-(1))
- (6) 全職員が統一された業務を遂行するため、各種委員会やチーム会議を計画どおり開催し、服薬や認知症ケアに関するマニュアルを再確認しました。(4-(1))
- (7) 組織目標をもとに職員一人ひとりが個人目標を設定し、定期的に面談の場を設けて進捗を確認することや、職員同士が交流できるレクリエーションを企画する等、職員間のコミュニケーションの活性化を図りました。(4-(3))
- (8) 感染症や災害等、不測の事態が発生した際、慌てず適切に行動できるよう定期的にシミュレーション訓練を実施しました。実施後には課題を見出し、その都度マニュアルを改訂することにより対応能力の向上に努めました。(5-(1))
- (9) 技能実習生が各種研修や社会体験を通じて正しく技能を習得できるよう、生活指導員や技能指導員が中心となり育成を行いました。また、一定の技能を備えた特定技能実習生には、後輩の指導や教育を任せることで、さらなるレベルアップにも挑戦しました。(5-(2))

事業運営

1 利用状況（定員30名 通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均利用者数 | 26.6名 | (前年度 26.3名) |
| (2) 稼働率 | 88.7% | (前年度 87.7%) |
| (3) 平均介護度 | 2.00 | (前年度 2.10) |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|----------------------------|
| (1) 行事関係 | 58回 | (夏祭り、曜日対抗ペガサスリーグ、新春かくし芸大会) |
| (2) 外出支援 | 2回 | (紅葉外出、初詣外出) |
| (3) 食事関係 | 22回 | (バイキング、バーベキュー、満腹御膳) |

3 職員研修

- | | | |
|----------|-----|------------------------|
| (1) 外部研修 | 15回 | 延べ人数23名 |
| (2) 内部研修 | 14回 | (プライバシー保護、感染症予防、認知症ケア) |

4 各種会議・委員会

- | | | |
|--------------|-----|-----------------------|
| (1) 定例会議・委員会 | 64回 | (デイサービス会議、衛生委員会、祭り会議) |
| (2) 臨時会議・委員会 | 3回 | (感染症予防、デイサービスリーダー会議) |

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 生産性の向上を図るため、入浴サービス提供時の職員配置や各業務を見直しスリム化したことにより、時間を有効活用できるようになり、利用者へのサービス提供内容の充実につながりました。(1-(1))
- (2) 各関係機関との報連相を適時適切に実施することで、信頼される事業所づくりに努めました。また、職員間での情報を共有し、利用者に安定した質の高いサービスを提供するよう心がけ、新規利用者及びリピーターの確保に努めました。(1-(3))
- (3) 利用者個々のニーズに対応するため、様々なレクリエーションプログラムを用意しました。また、季節時のレクリエーションとして実施したフラワークラフトでは、個性あふれる作品が出来上がり、利用者同士のコミュニケーションが活発となりました。(2-(1))
- (4) 在宅生活に必要な身体機能を維持するため、階段昇降運動や平行棒運動、ペダル漕ぎ運動等、個々に合った機能訓練プログラムを提供しました。(2-(1))
- (5) 職員の知識、技術向上のため、計画どおりのテーマ研修会を実施したことで、事業所全体のレベルアップに努めました。(2-(3))
- (6) フロアの整理整頓を徹底し、安全で過ごしやすい空間をつくるとともに、季節感のあるフロアとするため、日頃から利用者が作成している作品を活用して設えました。(2-(4))
- (7) 地域における地域ケア会議への出席や出前講座の講師として地域に出掛け、各関係機関や地域住民と関わりを持つことで、地域福祉の一躍を担いました。(3-(2))
- (8) 職員タイムスケジュール表や業務内容一覧表等のマニュアルを見直しすることで、新任職員や異動職員であっても業務内容が明確にわかるように工夫しました。(4-(1))
- (9) 作品づくりや園芸等、職員の特技を活かすことができるレクリエーションをプログラム化することで、各職員のモチベーションの向上、並びに利用者へのサービスの質の向上に波及することができました。(4-(3))
- (10) 感染症や災害等、不測の事態が発生した際、慌てず適切に行動できるよう定期的にシミュレーション訓練を実施しました。実施後には課題を見出し、その都度マニュアルを改訂することで、対応能力の向上に努めました。(5-(1))

事業運営

- 1 利用状況（定員9名 通年営業）
 - (1) 平均利用者数 8.8名（前年度 8.9名）
 - (2) 稼働率 98.5%（前年度 99.2%）
 - (3) 平均介護度 1.53（前年度 1.70）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 28回（夏祭り、秋祭り、餅つき）
 - (2) 外出支援 13回（桜花見、喫茶外出、ショッピング）
 - (3) 食事関係 12回（重箱ランチ、土用丑、バイキング）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 3回 延べ人数3名
 - (2) 内部研修 15回（感染症予防、事故防止、認知症ケア）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 40回（調整会議、運営推進会議、ホーム会議）
 - (2) 臨時会議・委員会 2回（感染症予防）

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 食事の準備やシーツ交換、入浴の時間等、各業務を見直すことにより、職員一人ひとりの業務負担の軽減に努めることで、利用者との関わりに時間を費やすことができました。(1-(1))
- (2) 併設の事業所や地域包括支援センターと連携して、在宅での生活が困窮な地域住民を把握することで、円滑な入所確保ができました。(1-(3))
- (3) 利用開始前に在宅の生活状況を確認するとともに、日々の生活から料理や庭仕事等、利用者の嗜好や能力を各職員で共有することで、その人らしい暮らしが継続できるよう支援しました。(2-(1))
- (4) 職員の知識、技能の向上を図るため、内部研修に非常勤職員が参加できるよう、開催時間の見直しや学びの場を確保し、事業所全体のレベルアップにつなげました。(2-(3))
- (5) 事業所運営の透明性を確保するため、計画どおり運営推進会議を開催しました。会議では、活動報告並びに参加された地域住民からの意見や要望を聞く等の交流を図り、開かれた事業所運営につなげました。(3-(2))
- (6) 統一したサービスの提供を実現するため、認知症ケアや緊急時対応等、各種マニュアルを見直し、定例会議の場を用いて各職員に周知徹底を行いました。(4-(1))
- (7) 組織目標をもとに職員一人ひとりが個人目標を設定し、定期的に面談の場を設けて進捗状況を確認するなど、職員同士が交流できるレクリエーションを企画する等、職員間のコミュニケーションの活性化に努めました。(4-(3))
- (8) 感染症や災害等、不測の事態が発生した際、慌てず適切に行動できるよう定期的にシミュレーション訓練を実施しました。実施後には課題を見出し、その都度マニュアルを改訂することで、対応能力を向上に努めました。(5-(1))

事業運営

1 入所状況（定員30名 通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均入所者数 | 27.4名 | (前年度 28.4名) |
| (2) 稼働率 | 91.4% | (前年度 94.6%) |
| (3) 要介護者数 | 9.2名 | (前年度 8.6名) |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|---------------------|
| (1) 行事関係 | 99回 | (秋祭り、流しそうめん、クリスマス会) |
| (2) 外出支援 | 44回 | (ショッピング、桜花見、紫陽花) |
| (3) 食事関係 | 33回 | (バイキング、モーニング、季節御膳) |

3 職員研修

- | | | |
|----------|-----|--------------------------|
| (1) 外部研修 | 2回 | 延べ人数2名 |
| (2) 内部研修 | 12回 | (ハラスメント予防、権利擁護、プライバシー保護) |

4 各種会議・委員会

- | | | |
|--------------|-----|-------------------------|
| (1) 定例会議・委員会 | 58回 | (けあほうす会議、事故防止委員会、感染症予防) |
| (2) 臨時会議・委員会 | 2回 | (感染症予防) |

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 新たに作成したパンフレットの活用やインスタグラムで生活状況等の発信を行い、新規入所申込者に興味を持っていただけるよう宣伝したことにより、空室が発生した際、円滑に入所していただくことができました。(1-(3))
- (2) 入所者が快適で安全な居住環境やストレスのない生活を送ることができるよう、居室内の手すりや動線に適した家具の設置についての助言をしました。また、家族、居宅介護支援事業所と連携し、その人らしい自立した生活の実現に努めました。(2-(1))
- (3) 日常生活の中での趣味や活動について、入所者が楽しみや生きがいのある生活が送れるよう裁縫・作品づくり・園芸などの多様なレクリエーション、クラブを実施しました。また、管理栄養士や歯科衛生士等、各専門職による栄養相談、健康体操、歯科相談を実施することで、入所者の健康維持につなげました。(2-(3))
- (4) 水道設備や電気設備等の点検を定期的に行うとともに、居室のエアコン掃除や室内の空調管理などの居室の環境を整えました。また、集会室やエレベーターホールに入所者の作品を展示することで、入所者同士の交流を促しました。(2-(4))
- (5) 地域の福祉課題に寄与するため、医療機関の地域連携室、地域包括支援センター、民生委員と連携し、退院後の生活に不安のある高齢者を積極的に受け入れました。(3-(1))
- (6) 組織目標をもとに職員一人ひとりが個人目標を設定し、定期的に面談の場を設けて進捗状況を確認し、職員同士が交流できるレクリエーションを企画する等、職員間のコミュニケーションの活性化に努めました。(4-(3))
- (7) 感染症や災害等、不測の事態が発生した際、慌てず適切に行動できるよう定期的にシミュレーション訓練を実施しました。実施後には課題を見出し、その都度マニュアルを改訂することで、対応能力に努めました。(5-(1))

事業運営

- 1 入所状況（定員80名 通年営業）
 - (1) 平均入所者数 78.4名（前年度 77.9名）
 - (2) 稼働率 97.9%（前年度 97.3%）
 - (3) 平均介護度 4.06（前年度 4.09）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 13回（夏祭り、合唱隊、運動会等）
 - (2) 外出支援 2回（買い物ツアー、福祉観覧デー）
 - (3) 食事関係 23回（昼食バイキング、ランチ会、おせち料理）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 29回 延べ人数37名
 - (2) 内部研修 12回（各種ハラスメント、虐待防止、看取りについて）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 129回（ユニット会議、事故防止委員会、虐待防止委員会等）
 - (2) 臨時会議・委員会 13回（臨時事故検討会）

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 毎月の役職者会議において介護現場での課題を抽出し、適宜見直しを行うことで認識統一と業務共有を図りました。また、事故防止委員会においては、福祉用具の活用を推進し、職員の技術向上のための活動を行い、年間通して生産性向上に向けた取り組みに努めました。(1-(1))
- (2) 各種予算では、執行状況についての会議の場で報告を行い、職員一人ひとりにコスト意識を定着させるよう努めました。また、安定した収入基盤の確保のため、入所者の状況の変化に応じた要介護の変更申請を速やかに行うことができました。(1-(3))
- (3) 虐待防止の取り組みでは、各種委員会において介護現場における不適切ケアを抽出し、対策のための具体的なケアの方法を提示しました。原因不明の皮下出血等については、人的要因、環境要因の双方から対策を講じました。(2-(1))
- (4) 入所者の食支援については、ミールラウンドにおいて多職種が食事のリスクや姿勢等を確認し、食事形態や食事量の変更を行うなど、リスクの早期発見に努めました。また、良質な介護サービスの提供のため、職員の食事介助における姿勢や介護技術についても見直しを行いました。(2-(3))
- (5) 介護の日では、近隣の地域住民を招き人生会議についての講義を行いました。また、福祉カフェを地域ボランティアの方々と協同で行うことで、入所者の楽しみのある場とするだけでなく、ケアマネジャーには、施設の取り組み内容を認識していただくことで地域との交流を深めることができました。(3-(1))
- (6) 各種会議、委員会においては、適宜マニュアルと介護技術の見直しを行い、ユニット間で格差がないよう業務の標準化を図りました。また、センサーマットの管理や福祉用具の取り扱いについても、全体に周知することで、職員が統一した業務行動ができるように努めました。(4-(1))
- (7) 職員一人ひとりの課題や悩みなどを逃さず、役職者間で共有し、速やかに面談等を行うことでストレスケアに努め、不本意な離職を防ぐことができました。また、大規模行事の打ち上げでは、多くの職員が参加し、親睦を深めることができました。(4-(3))
- (8) 感染委員会や臨時の対策会議では、感染症発生時のフローチャートの見直しを行い、速やかに感染対策が行えるようにしました。ユニットには、感染物品を配備し、職員の動線を分けることで、クラスターの発生を防ぐことができました。(5-(1))
- (9) 技能実習生の指導に関しては、チューター職員と各指導者が連携をとり、安心して介護現場での業務を覚え、日常生活が営めるよう支援しました。技能実習計画に基づき、介護現場における独り立ちと、日本語能力試験の合格につなげることができました。(5-(2))

事業運営

- 1 利用状況（定員20名 通年営業）
 - (1) 平均入所者数 19.4名（前年度 17.9名）
 - (2) 稼働率 97.2%（前年度 89.3%）
 - (3) 平均介護度 3.24（前年度 2.82）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 13回（夏祭り、合唱隊、運動会等）
 - (2) 外出支援 2回（買い物ツアー、福祉観覧デー）
 - (3) 食事関係 23回（昼食バイキング、ランチ会、おせち料理）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 29回 延べ人数37名
 - (2) 内部研修 12回（各種ハラスメント、虐待防止、看取りについて）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 129回（ユニット会議、事故防止委員会、虐待防止委員会）
 - (2) 臨時会議・委員会 13回（臨時事故検討会）

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 毎月の役職者会議において介護現場での課題を抽出し、適宜見直しを行うことで認識統一と業務の共有を図りました。また、事故防止委員会においては福祉用具の活用を推進し、職員の技術向上のための活動を行い、年間通して生産性向上に向けて取り組みに努めました。(1-(1))
- (2) 地域のセーフティネットの役割を果たすために、関係機関と連携を図り、重度の要介護者や困難事例な方の受入れをすることで、信頼関係の構築と安定した財政基盤の確保に努めました。(1-(3))
- (3) ショートステイの利用に関しては利用者の生活歴や趣味、嗜好等を考慮したレクリエーションを開催し、楽しみの場となるような行事を企画しました。また、ケア方法についても在宅での生活を考慮し、心身の状態に変化がないように家族との情報共有に努めました。(2-(1))
- (4) 入所者の食支援については、ミールラウンドにおいて多職種が食事のリスクや姿勢等を確認し、食事形態や食事量の変更を行うなど、リスクの早期発見に努めました。また、良質な介護サービスの提供のため、職員の食事介助における姿勢や介護技術についても見直しを行いました。(2-(3))
- (5) 介護の日では近隣の地域住民を招いて人生会議についての講義を行いました。また、福祉カフェを地域ボランティアの方々と協同で行うことで、入所者の楽しみの場とするだけでなく、ケアマネジャーには、施設の取り組み内容を認識していただくことで地域との交流を深めることができました。(3-(1))
- (6) 各種会議、委員会においては、適宜マニュアルと介護技術の見直しを行い、ユニット間で格差がないよう業務の標準化を図りました。また、センサーマットの管理や福祉用具の取り扱いについても、全体に周知することで、職員が統一した業務行動ができるように努めました。(4-(1))
- (7) 職員一人ひとりの課題や悩みなどを逃さず、役職者間で共有し、速やかに面談等を行うことでストレスケアに努め、不本意な離職を防ぐことができました。また、大規模行事の打ち上げでは、多くの職員が参加し親睦を深めることができました。(4-(3))
- (8) 感染委員会や臨時の対策会議では、感染症発生時のフローチャートの見直しを行い、速やかに感染対策が行えるようにしました。また、ユニットには感染物品を配備し、職員の動線を分けることで、クラスターの発生を防ぐことができました。(5-(1))
- (9) 技能実習生の指導では、チューター職員と各指導者が連携を図ることで、安心して介護現場での業務を覚え、日常生活が営めるように支援しました。技能実習計画に基づき、介護現場における独り立ちと、日本語能力試験の合格につなげることができました。(5-(2))

事業運営

- 1 入所状況（定員96名 通年営業）
 - (1) 平均入所者数 95.0名（前年度 95.0名）
 - (2) 稼働率 99.0%（前年度 99.0%）
 - (3) 平均介護度 4.02（前年度 4.01）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 14回（夏祭り、介護の日、クリスマス会等）
 - (2) 外出支援 3回（清洲城イルミネーション見学）
 - (3) 食事関係 27回（バイキング、松花堂弁当、土用の丑の日等）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 32回 延べ人数46名
 - (2) 内部研修 12回（感染対策研修、事故防止研修、看取り研修等）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 120回（運営連絡会議、リーダー会議、ユニット会議等）
 - (2) 臨時会議・委員会 1回（コロナウイルス対策会議）

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 地域での生活困窮者に対して、速やかに受け入れ体制を整える等、社会福祉施設としての責務と役割を果たすことができました。また、サービスを提供するにあたっての課題が発生した際には、多職種が集まり適時検討することで、速やかに課題を解決しました。(1-(1))
- (2) 入所者の心身状態の変化には常に留意し、必要に応じた区分変更申請や取得する加算の内容を見直すことで、適切なサービスの提供かつ健全な収入確保を実現できました。また、目標としていた稼働率や事業収入値も達成しました。(1-(3))
- (3) コロナ禍ではありましたが、対面での面会ができる機会を可能な限り設けることで、入所者、家族双方にとっての喜びや生きがいにつながる機会を提供することができました。また、面会の際には、積極的に家族とのコミュニケーションを図り、得られたニーズを多職種で共有し、より良いサービスの提供につなげました。(2-(1))
- (4) 職員の資質及びモチベーションの向上を図るため、施設内外の研修に積極的に参加しました。専門知識や技術に関するものだけでなく、生産性向上のためのセミナーや他法人が開催する介護オリンピックを聴講する等、様々な機会を活用しました。(2-(3))
- (5) 実習生指導では、介護福祉士や社会福祉士等種類を限定しての受け入れとしていましたが、地元教育委員会からの相談に応じ、地域の中学校が実施する職場体験実習を再開したことで、若い世代に介護の現場を体験していただくことができました。また、地域で開催されたイベントに出店し、施設の活動内容についても広報することができました。年度末には、ボランティア活動の受け入れも再開しました。(3-(1))
- (6) 安定した水準のサービスを継続的に提供するため、各種マニュアルの見直しを適時行い、全職員が情報共有することで、業務が標準化できるように取り組みました。(4-(1))
- (7) 介護人材がますます不足する中、定着して長く働ける体制構築のため、職員同士で意見が交換しやすい環境を作るよう努めました。(4-(3))
- (8) 新型コロナウイルスの流行も一定の落ち着きを見せ分類が5類に移行されましたが、気を緩めることなく感染対策研修を適時実施することで、職員の日頃からの感染予防意識の向上に努めました。(5-(1))
- (9) 技能実習生に対して適切な指導を行うため、職員が日本語教師の資格を取得することで、より専門性が高く根拠に基づいた指導をすることができました。また、語学や介護技術のほか、外出行事を通じて日本の文化や伝統を知る機会を与えることができました。(5-(2))

事業運営

- 1 利用状況（定員30名 通年営業）
 - (1) 平均利用者数 28.6名（前年度 28.0名）
 - (2) 稼働率 95.4%（前年度 93.4%）
 - (3) 平均介護度 3.23（前年度 2.76）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 14回（夏祭り、介護の日、クリスマス会等）
 - (2) 外出支援 3回（清洲城イルミネーション見学）
 - (3) 食事関係 27回（バイキング、松花堂弁当、土用の丑の日等）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 32回 延べ人数46名
 - (2) 内部研修 12回（感染対策研修、事故防止研修、看取り研修等）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 120回（運営連絡会議、リーダー会議、ユニット会議等）
 - (2) 臨時会議・委員会 1回（コロナウイルス対策会議）

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 地域での生活困窮者に対して、速やかに受け入れ体制を整える等、社会福祉施設としての責務と役割を果たすことができました。また、サービスを提供するにあたっての課題が発生した際には、多職種が集まり適時検討することで、速やかに課題を解決しました。(1-(1))
- (2) 利用者のニーズや利用状況を居宅ケアマネに適時情報提供することで、信頼を得て多くの新規利用者を紹介していただくことができました。新型コロナウイルスが流行した時期があったことから、目標としていた稼働率にはわずかに届かなかったものの、要介護度が高い利用者を積極的に受け入れたことにより、事業収入値は安定して確保することができました。(1-(3))
- (3) 短期入所は常に利用者が入れ替わり、職員には様々な人物像に対応できる能力が求められることから、どのような利用者であっても専門職として倫理観を持った適切な接遇ができるよう、ユニット会議等で常に振り返りに努めました。(2-(1))
- (4) 職員の資質及びモチベーションの向上を図るため、施設内外の研修に積極的に参加しました。専門知識や技術に関するものだけでなく、生産性向上のためのセミナーや他法人が開催する介護オリンピックを聴講する等、様々な機会を活用しました。(2-(3))
- (5) 実習生指導では、介護福祉士や社会福祉士等種類を限定しての受け入れとしていましたが、地元教育委員会からの相談に応じ、地域の中学校が実施する職場体験実習を再開したことで、若い世代に介護の現場を体験していただくことができました。また、地域で開催されたイベントに出店し、施設の活動内容についても広報することができました。年度末には、ボランティア活動の受け入れも再開しました。(3-(1))
- (6) 安定した水準のサービスを継続的に提供するため、各種マニュアルの見直しを適時行い全職員が情報共有することで、業務が標準化できるように取り組みました。(4-(1))
- (7) 介護人材がますます不足する中、定着して長く働ける体制構築のため、職員同士で意見が交換しやすい環境を作るよう努めました。(4-(3))
- (8) 新型コロナウイルスの流行も一定の落ち着きを見せ分類が5類に移行されましたが、気を緩めることなく感染対策研修を適時実施することで、職員の日頃からの感染予防意識の向上に努めました。(5-(1))
- (9) 技能実習生に対して適切な指導を行うため、職員が日本語教師の資格を取得することで、より専門性が高く根拠に基づいた指導をすることができました。また、語学や介護技術のほか、外出行事を通じて日本の文化や伝統を知る機会を与えることができました。(5-(2))

事業運営

- 1 利用状況（定員30名 通年営業 年始2日間及び夏祭り開催日を除く）
 - (1) 平均利用者数 27.9名（前年度 27.9名）
 - (2) 稼働率 93.0%（前年度 93.0%）
 - (3) 平均介護度 2.04（前年度 2.13）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 14回（法人合同イベント、お楽しみ会、節分等）
 - (2) 外出支援 0回
 - (3) 食事関係 14回（バイキング、松花堂弁当、おせち料理等）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 5回 延べ人数5名
 - (2) 内部研修 12回（感染対策研修、事故防止研修、接遇研修等）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 36回（運営連絡会議、感染対策会議、デイサービス会議等）
 - (2) 臨時会議・委員会 1回（コロナウイルス対策会議）

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 安定した水準のサービスを継続的に提供するため、各種マニュアルの見直しを適時行い、全職員が情報共有することで、業務の標準化に取り組み、職員の労働負担の軽減につなげることができました。(1-(1))
- (2) 利用者のニーズや利用状況を居宅ケアマネに適時情報提供することで、信頼を得て多くの新規利用者を紹介していただくことができました。年間では目標としていた稼働率を大幅に超え、事業収入値も安定して確保することができました。(1-(3))
- (3) 今後も在宅での生活を続けられるよう、家族や居宅ケアマネからの情報収集をこまめに行い、提供するサービスに反映しました。また、歩行での入浴が難しいとの意見が多かったことを受け、浴槽用リフトを整備いたしました。(2-(1))
- (4) 目的や意欲を持ってデイサービスを利用していただくため、レクリエーションプログラムの作成時には、「マイチョイス」という考え方を重視し、利用者の希望を可能な限り取り入れました。デイサービス専門雑誌「月刊DAY」に作品を応募した際には、出品作品が入賞を果たし、利用者にとって大きな喜びとなりました。また、リハビリを目的とした庭園の散歩、若しくは少人数での麻雀等、心身の機能維持に有効と考えられる取り組みを数多く行いました。(2-(3))
- (5) デイサービス事業としての取り組み内容を広く知っていただくため、各種イベントや日常生活の様子を積極的にInstagramに投稿しました。また、居宅ケアマネに対して重点的に活動内容を報告することで、地域から信頼が得られるように活動しました。(3-(2))
- (6) 毎月開催のデイサービス会議では、利用者処遇に関することはもとより、各種スキルの向上を目的とした研修会を開催し、非常勤職員も含め積極的に意見交換することで、チーム力を向上することができました。(4-(1))
- (7) 介護人材がますます不足する中、定着して長く働ける体制構築のため、職員同士で意見が交換しやすい環境を作るように努めました。(4-(3))
- (8) 新型コロナウイルスの流行も一定の落ち着きを見せ分類が5類に移行されましたが、気を緩めることなく感染対策研修を適時実施することで、職員の日頃からの感染予防意識の向上に努めました。(5-(1))

事業運営

1 入所状況（定員100名 通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均入所者数 | 97.1名 | (前年度 84.7名) |
| (2) 稼働率 | 97.1% | (前年度 84.7%) |
| (3) 平均介護度 | 3.87 | (前年度 3.86) |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|--------------------|
| (1) 行事関係 | 16回 | (ビアガーデン、力士慰問、秋祭り等) |
| (2) 外出支援 | 1回 | (福祉観覧デー) |
| (3) 食事関係 | 17回 | (季節の御膳、モーニング) |

3 職員研修

- | | | |
|----------|-----|-------------------------|
| (1) 外部研修 | 35回 | 延べ人数60名 |
| (2) 内部研修 | 24回 | (ハラスメント対策、事故防止、運営連絡会議等) |

4 各種会議・委員会

- | | | |
|--------------|------|-----------------------------|
| (1) 定例会議・委員会 | 226回 | (サービス担当者会議、運営連絡会議、感染対策委員会等) |
| (2) 臨時会議・委員会 | 27回 | (臨時事故検討会議、緊急感染対策会議等) |

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 施設内の全てのパソコンで閲覧できるフォルダを使用し、各種情報の共有を迅速に行うことで、職種間の連携強化を図り、生産性の向上に努めました。また、分散して設置していた見守り機器を1フロアに集めることで、効率的な運用ができ、職員の負担軽減につなげることができました。(1-(1))
- (2) 入所選考委員会を定期的で開催し、要介護度や介護者負担等の指標をもとに、緊急性の高い入所待機者が速やかに施設サービスを受けることができるよう努めました。また、介護度の見直しを適宜行い、適正な介護報酬の確保に努めました。(1-(3))
- (3) 入所者との日頃からのコミュニケーション、担当者会議、面会時に家族が来所した際に聞き取った嗜好品や昔のエピソード等の意向に沿って、その人らしい生活の継続に努めました。また、施設の行事やイベントの参加については、個々に参加の有無を確認し、自己決定や自己選択の機会の確保に努めました。(2-(1))
- (4) 入所者の状態を詳細に記録に残すことで、職種間で状態変化の共有を図り、入院者の減少や看取りケアへのスムーズな移行等、迅速な対応につなげることができました。また、委員会や会議等で挙げた意見を参考に、マニュアルの見直しを適宜行い、安定したサービス提供に努めました。(2-(3))
- (5) 地域の自治会と協働で開催した秋の文化まつりでは、作品展示や演奏会に加え、地域に向けて介護に関する啓発を行う等、地域との共生に努めました。また、ボランティアの方の演奏や歌を披露するミニコンサートでは、入所者に交じり入所者と付き合いのあった近隣の方も参加したことで、入所者の心身の活性化につながりました。(3-(1))
- (6) 新任職員には、チューター職員のみならず副主任を含めたチームで丁寧にフォローを行うことで、新人指導に役立てることができました。また、定期的に職員面談を実施し、職員間の人間関係や介助等の技術的な悩み等の課題解決に取り組むことで、働きやすい環境づくりに努めました。(4-(3))
- (7) 内部研修や各種会議、委員会の場において、参加職員の発言機会の確保に努めました。挙げた意見に対して、具現化に向けてチームで取り組むことで、職員間の一体感が生まれ、職場環境の活性化につなげることができました。(4-(4))
- (8) 日々の感染対策に加え、感染症発生時には迅速な対応に努め、蔓延を防止することができました。また、風水害の発生を想定した避難訓練では、元消防署職員監修の下、より実践的な訓練を行うことで多くの学びを得ることができました。(5-(1))

事業運営

- 1 利用状況（定員20名 通年営業）
 - (1) 平均利用者数 17.6名（前年度 7.2名）
 - (2) 稼働率 88.0%（前年度 36.0%）
 - (3) 平均介護度 3.06（前年度 2.28）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 16回（ビアガーデン、力士慰問、秋祭り等）
 - (2) 外出支援 1回（福祉観覧デー）
 - (3) 食事関係 17回（季節の御膳、モーニング）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 35回 延べ人数60名
 - (2) 内部研修 24回（ハラスメント対策、事故防止、運営連絡会議等）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 199回（事故防止委員会、褥瘡予防委員会、運営連絡会議等）
 - (2) 臨時会議・委員会 16回（臨時事故検討会議、緊急感染対策委員会）

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 施設内の全てのパソコンで閲覧できるフォルダを使用し、各種情報の共有を迅速に行うことで、職種間の連携強化を図り、生産性の向上に努めました。また、分散して設置していた見守り機器を1フロアに集めることで、効率的な運用ができ、職員の負担軽減につなげることができました。(1-(1))
- (2) 地域のセーフティネットの役割を果たすため、行政や関係機関と連携を図り、急な状態変化で在宅生活が困難になった方を緊急で受入れる等、信頼関係の構築に努めました。また、施設での取り組みを紹介するリーフレットを作成し、地域や家族に向けて発信することで、開かれた施設運営に努めました。(1-(3))
- (3) 送迎時や担当者会議で得た情報を迅速に職種間で共有することで、利用者の意向を尊重したサービス提供に努めました。また、作品作り等のレクリエーション活動を、職員による月毎の担当制とすることで、得意分野を生かした多様な活動につながり、日常生活の活性化を図ることができました。(2-(1))
- (4) 利用者の状態を詳細に記録に残すことで、職種間で状態変化の共有を図り、家族や居宅介護支援事業所へスムーズな情報提供ができ、質の高いサービス提供につなげることができました。また、委員会や会議等で挙げた意見を参考に、マニュアルの見直しを適宜行い安定したサービス提供に努めました。(2-(3))
- (5) 地域の自治会と協働で開催した秋の文化まつりでは、作品展示や演奏会に加え、地域に向けて介護に関する啓発を行う等、地域との共生に努めました。また、ボランティアの方の演奏や歌を披露するミニコンサートでは、入所者に交じり入所者と付き合いのあった近隣の方も参加したことで、入所者の心身の活性化につながりました。(3-(1))
- (6) 新任職員には、チューター職員のみならず副主任を含めたチームで丁寧にフォローを行うことで、新人指導に役立てることができました。また、定期的に職員面談を実施し、職員間の人間関係や介助等の技術的な悩み等の課題解決に取り組むことで、働きやすい環境づくりに努めました。(4-(3))
- (7) 内部研修や各種会議、委員会の場合において、参加職員の発言機会の確保に努めました。挙げた意見に対して、具現化に向けてチームで取り組むことで、職員間の一体感が生まれ、職場環境の活性化につなげることができました。(4-(4))
- (8) 日々の感染対策に加え、感染症発生時には迅速な対応に努め、蔓延を防止することができました。また、風水害の発生を想定した避難訓練では、元消防署職員監修の下、より実践的な訓練を行うことで多くの学びを得ることができました。(5-(1))

事業運営

- 1 ケアプラン作成状況（ケアプランセンターあいせの数値を含む）
 - (1) 作成数 2, 417名（前年度 2, 778名）
 - (2) 予防委託件数 336名（前年度 592名）
 - (3) 平均介護度 2.37（前年度 1.94）
- 2 相談受付状況（ケアプランセンターあいせの数値を含む）
 - (1) 全体
 - (2) 地区別

ア 清須市	79名	（前年度	58名）
イ 北名古屋市	12名	（前年度	43名）
ウ 豊山町	1名	（前年度	2名）
エ その他	1名	（前年度	6名）
- 3 新規契約・契約終了数（ケアプランセンターあいせの数値を含む）
 - (1) 新規契約数 57名（前年度 83名）
 - (2) 契約終了数 140名（前年度 68名）
- 4 認定調査請求数 136名（前年度 120名）
- 5 職員研修
 - (1) 外部研修 36回 延べ人数56名
 - (2) 内部研修 11回（事例検討、虐待防止、業務改善計画）
- 6 各種会議・委員会
 - (1) 各種会議 52回（定例会議、合同会議、感染症委員会）
 - (2) 臨時会議 0回

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 2つの事業所間においては、常に連携強化に努めて情報共有を行いました。また、担当エリアが限定的になったことで、訪問での移動の効率が向上しました。（1-(1)）
- (2) 新規相談では、拠点に分けることで、以前より更に地域に密着した活動ができ、相談件数が増加し、包括的に西春日井エリアを担当することができるようになりました。また、各新規契約を積極的に受けることで、安定した予算の執行に努めとともに、入院時情報連携など様々な加算の取得を行いました。（1-(3)）
- (3) 利用者の立場となり、様々な困り事の相談や傾聴など、適切な在宅サービスの提案を行い、環境面では、住宅改修の提案を行うなど、暮らしの満足度を高める支援が出来ました。また、ショートステイなどのサービスを促し、家族の介護負担軽減や満足度の向上にも努めました。（2-(1)）
- (4) 法改正の内容の研修に積極的に参加することで、改正内容の理解を深めました。感染症、虐待防止、業務継続計画についても、委員会を設けることで周知に努めました。（2-(3)）
- (5) 清須市、北名古屋市及び豊山町のケアマネ会に所属し、関係機関との連携を図り、最新の情報に触れる機会を持ちました。また、ケアマネ会、行政、保健所など多職種との勉強会に参加することで知識向上に努めました。（3-(1)）
- (6) 上司から積極的な声かけを行うことで、気兼ねなく会話ができる雰囲気づくりに努めました。また、無理のない業務内容を心がけ、休暇取得を積極的に推奨するなど、働きやすい環境づくりに努めました。（4-(3)）
- (7) 地域ケア会議において事例の発信者となり、居宅支援の様々な地域資源の情報を得る機会となりました。また、事例検討で上がった地域問題を共有するなど、課題解決への取り組みを行いました。（4-(4)）
- (8) 事業継続計画の内容を精査し、様々な有事を想定した研修を行うことで、計画内容の見直しすることができました。引き続き、継続的に研修を行い、様々な事柄に対して見直しを行います。（5-(1)）

事業運営

1	ケアプラン作成状況		
(1)	作成数	1, 156名	(前年度 -----名)
(2)	予防委託件数	307名	(前年度 -----名)
(3)	平均介護度	2.30	(前年度 -----)
2	相談受付状況		
(1)	全体	100名	(前年度 -----名)
(2)	地区別		
	ア 清須市	2名	(前年度 -----名)
	イ 北名古屋市	77名	(前年度 -----名)
	ウ 豊山町	19名	(前年度 -----名)
	エ その他	2名	(前年度 -----名)
3	新規契約・契約終了数		
(1)	新規契約数	72名	(前年度 -----名)
(2)	契約終了数	45名	(前年度 -----名)
4	認定調査請求数	0名	(前年度 -----名)
5	職員研修		
(1)	外部研修	26回	延べ人数39名
(2)	内部研修	9回	(事例検討、虐待防止、業務改善計画)
6	各種会議・委員会		
(1)	各種会議	52回	(定例会議、合同会議、感染症委員会)
(2)	臨時会議	0回	

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 2つの事業所間においては、常に連携強化に努めて情報共有を行いました。また、担当エリアが限定的になったことで、訪問での移動の効率が向上しました。(1-(1))
- (2) 新規相談では、拠点に分けることで、以前より更に地域に密着した活動ができ、相談件数が増加し、包括的に西春日井エリアを担当することができるようになりました。また、各新規契約を積極的に受けることで、安定した予算の執行に努めとともに、入院時情報連携など様々な加算の取得を行いました。(1-(3))
- (3) 利用者の立場となり、様々な困り事の相談や傾聴など、適切な在宅サービスの提案を行い、環境面では、住宅改修の提案を行うなど、暮らしの満足度を高める支援が出来ました。また、ショートステイなどのサービスを促し、家族の介護負担軽減や満足度の向上にも努めました。(2-(1))
- (4) 法改正の内容の研修に積極的に参加することで、改正内容の理解を深めました。感染症、虐待防止、業務継続計画についても、委員会を設けることで周知に努めました。(2-(3))
- (5) 清須市、北名古屋及び豊山町のケアマネ会に所属し、関係機関との連携を図り、最新の情報に触れる機会を持ちました。また、ケアマネ会、行政、保健所など多職種との勉強会に参加することで知識向上に努めました。(3-(1))
- (6) 上司から積極的な声かけを行うことで、気兼ねなく会話ができる雰囲気づくりに努めました。また、無理のない業務内容を心がけ、休暇取得を積極的に推奨するなど、働きやすい環境づくりに努めました。(4-(3))
- (7) 地域ケア会議において事例の発信者となり、居宅支援の様々な地域資源の情報を得る機会となりました。また、事例検討で上がった地域問題を共有するなど、課題解決への取り組みを行いました。(4-(4))
- (8) 事業継続計画の内容を精査し、様々な有事を想定した研修を行うことで、計画内容の見直しすることができました。引き続き、継続的に研修を行い、様々な事柄に対して見直しを行います。(5-(1))

事業運営

1 入所状況（定員50名 通年営業）

- | | | |
|--------------|-------|-------------|
| (1) 平均入所者数 | 49.8名 | （前年度 49.8名） |
| (2) 稼働率 | 99.7% | （前年度 99.5%） |
| (3) 平均障害支援区分 | 5.34 | （前年度 5.34） |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|----------------------|
| (1) 行事関係 | 11回 | （杜の記念祭、夏まつり、クリスマス会等） |
| (2) 外出支援 | 14回 | （ドライブ） |
| (3) 食事関係 | 74回 | （ご当地メニュー、行事食） |

3 職員研修

- | | | |
|----------|-----|-------------------|
| (1) 外部研修 | 35回 | 延べ人数59名 |
| (2) 内部研修 | 36回 | （新人研修、実務研修、支援研修等） |

4 各種会議・委員会

- | | | |
|--------------|------|-----------------------|
| (1) 定例会議・委員会 | 216回 | （運営会議、ユニット会議、日活調整会議等） |
| (2) 臨時会議・委員会 | 5回 | （臨時主任者会議、臨時通所家族懇談会） |

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 嘱託職員やパート職員の確保に努めるとともに、支援体制及び業務内容の効率化について、運営会議やユニット会議において検討を行いました。(1-(1))
- (2) 年度内において入退所はなく、安定的な事業運営に努めました。(1-(3))
- (3) 入所者の人権を尊重し、一人ひとりの人権に配慮した安全で安心できるサービスの提供に努めました。虐待防止委員会を定期的に開催し、虐待防止及び人権擁護、身体拘束の適正化について職員の意識の向上を図りました。(2-(1))
- (4) 季節感のあるバラエティに富んだ献立を工夫し、楽しみのある豊かな食生活となるよう努めました。世界のご当地メニューや行事メニューを献立に取り入れ、食材や調理方法等、食への関心を高めました。(2-(3))
- (5) 潤いと楽しみのある豊かな生活づくりのため、余暇の充実に努めました。入所者個々のニーズに沿った趣味や運動、創作活動等、多様な余暇活動の機会を設けました。(2-(3))
- (6) 入所者が安心して暮らすことができる安全で快適な環境づくりに努めました。防災環境委員会を設置し、環境整備に取り組むとともに、非常時を想定した防災避難訓練や防犯訓練を行い、体制の整備を図りました。(2-(4))
- (7) 家族や地域ボランティアとの交流を図るため、杜の記念祭等の行事を開催しました。(3-(2))
- (8) 地域とのつながりを大切にし、入所者の社会参加を進めました。感染対策を行いながら、地域の飲食店やコンビニエンスストア等の利用を再開しました。(3-(2))
- (9) 業務内容を見直し、仕事の効率化を図りながら、時間外労働の縮減や有給休暇の取得に努めることで、人材の定着を図りました。(4-(3))
- (10) 外部研修に職員を派遣し、専門的な知識や技術の習得に努め、支援力の向上を図りました。また、経験や階層別、テーマ別の内部研修を開催し、実践力のある職員を育成し、福祉サービスの向上を図りました。(4-(4))
- (11) 感染症や災害の発生に向けて、研修や訓練等を実施し、対応力の強化を図りました。(5-(1))
- (12) 技能実習生が安心して生活できるように、必要な準備を進め、1月末に2名の実習生を受け入れました。正しい知識と技術の習得に取り組めるように、全職員が一体となって協力しています。(5-(2))

事業運営

1 利用状況（定員10名 通年営業）

- | | | |
|--------------|-------|-------------|
| (1) 平均利用者数 | 5.3名 | (前年度 5.0名) |
| (2) 稼働率 | 52.5% | (前年度 50.2%) |
| (3) 平均障害支援区分 | 4.94 | (前年度 4.98) |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|----------------------|
| (1) 行事関係 | 11回 | (杜の記念祭、夏まつり、クリスマス会等) |
| (2) 外出支援 | 14回 | (ドライブ) |
| (3) 食事関係 | 74回 | (ご当地メニュー、行事食) |

3 職員研修

- | | | |
|----------|-----|-------------------|
| (1) 外部研修 | 35回 | 延べ人数59名 |
| (2) 内部研修 | 36回 | (新人研修、実務研修、支援研修等) |

4 各種会議・委員会

- | | | |
|--------------|------|-----------------------|
| (1) 定例会議・委員会 | 216回 | (運営会議、ユニット会議、日活調整会議等) |
| (2) 臨時会議・委員会 | 5回 | (臨時主任者会議、臨時通所家族懇談会) |

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 嘱託職員やパート職員の確保に努めるとともに、支援体制及び業務内容の効率化について、運営会議やユニット会議において検討を行いました。(1-(1))
- (2) 緊急利用を優先しながら、効率的な利用調整を行い稼働率の向上に努めました。(1-(3))
- (3) 利用者の人権を尊重し、一人ひとりの人権に配慮した安全で安心できるサービスの提供に努めました。虐待防止委員会を定期的に開催し、虐待防止及び人権擁護、身体拘束の適正化について職員の意識の向上を図りました。(2-(1))
- (4) 利用中においては、個々の希望に合った活動内容を優先して実施し、休日においても余暇を楽しく過ごすことができるように努めました。(2-(3))
- (5) 家庭を離れる不安に配慮し、安全で安心できる生活環境の提供に努めました。(2-(4))
- (6) 地域関係者及び相談支援センターと連携し、サービスを必要としている地域の方々の利用の充実に努めました。(3-(1))
- (7) 懸案ケースについては、サービス担当者会議等に参加し、地域関係者や事業所及び相談支援センターとの連携を図りました。(3-(1))
- (8) 業務内容を見直し、仕事の効率化を図りながら、時間外労働の縮減や有給休暇の取得に努めることで、人材の定着を図りました。(4-(3))
- (9) 外部研修に職員を派遣し、専門的な知識や技術の習得に努め、支援力の向上を図りました。また、経験や階層別、テーマ別の内部研修を開催し、実践力のある職員を育成し、福祉サービスの向上を図りました。(4-(4))
- (10) 感染症や災害の発生に向けて、研修や訓練等を実施し、対応力の強化を図りました。(5-(1))
- (11) 技能実習生が安心して生活できるように、必要な準備を進め、1月末に2名の実習生を受け入れました。正しい知識と技術の習得に取り組めるように、全職員が一体となって協力しています。(5-(2))

事業運営

- 1 利用状況（定員68名 月～土営業、日曜及び年末年始6日は休業）
 - (1) 平均利用者数 66.8名（前年度 64.8名）
 - (2) 稼働率 98.2%（前年度 95.3%）
 - (3) 平均介護度 5.25（前年度 5.25）
- 2 地域交流事業等
 - (1) 行事関係 11回（杜の記念祭、夏まつり、クリスマス会等）
 - (2) 外出支援 14回（ドライブ）
 - (3) 食事関係 74回（ご当地メニュー、行事食）
- 3 職員研修
 - (1) 外部研修 35回 延べ人数59名
 - (2) 内部研修 36回（新人研修、実務研修、支援研修等）
- 4 各種会議・委員会
 - (1) 定例会議・委員会 216回（運営会議、ユニット会議、日活調整会議等）
 - (2) 臨時会議・委員会 5回（臨時主任者会議、臨時通所家族懇談会）

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 効率的な利用調整を行い、新規利用や利用回数増の希望に応じられるよう努めました。通所主任者会議及び日中活動調整会議を開催し、各グループ活動の調整を行い、円滑な運営を図りました。(1-(3))
- (2) 利用者のニーズに即した活動となるようプログラムや実施方法を工夫しました。計画相談と連動しながら本人のニーズに即した個別支援計画を作成し、個別支援の充実を図りました。また、委託業者への納品や作業材料の購入、近隣への外出等を段階的に再開し、社会参加活動に努めました。(2-(1))
- (3) ボランティアの受け入れを段階的に再開し、地域の理解者や支援者の増加に努めました。(2-(2))
- (4) 利用者の健康維持増進を図るために、健康委員会を設置し、職員の健康に関する意識の向上を図りました。また、感染症対策委員会を設置し、感染症等の予防に努めました。(2-(4))
- (5) 喫茶ギャラリーこもれびにおいて、利用者による接客や清掃、花の水やり等の活動を再開し、地域住民との交流を図りました。(3-(1))
- (6) 地域の理解と支援に感謝するとともに、感染予防に努めながら音楽ボランティア等を受け入れ、地域との交流を図りました。(3-(1))
- (7) 地域とのつながりを大切にし、利用者の社会参加を進めました。感染対策を行いながら、地域の飲食店やコンビニエンスストア等の利用を再開しました。(3-(1))
- (8) 地域の理解を深めるため、施設情報の発信に努めました。施設生活がより理解されるようSNSによる配信や施設広報誌杜のたよりを発行し、関係者に配布しました。(3-(2))
- (9) 地域のイベントや西春日井地域福祉の店への出店を通して、障害理解を進めました。また、喫茶ギャラリーこもれびを運営し、地域住民との交流を図るとともに、障害者福祉だけでなく高齢者福祉の情報発信にも努めました。(3-(2))
- (10) 地域社会の障害理解を深めるため、障害者週間に啓発活動を行いました。また、中学生の職場・福祉体験学習等を受け入れました。(4-(2))
- (11) 経験や階層別、テーマ別の内部研修を開催し、専門的な知識や技術の習得に努め、実践力のある職員を育成することで、福祉サービスの向上を図りました。(4-(4))
- (12) 利用者が安心して暮らすことができる安全で快適な環境づくりに努めました。防災環境委員会を設置し、環境整備に取り組むとともに、地震や水害に備え防災避難訓練等を行い、体制の整備を図りました。(5-(1))
- (13) 職員がコスト感覚を学ぶことで、節約や節電に努め、経費の削減を進めました。(5-(3))

事業運営

1 利用状況（定員20名 月～土営業、日曜及び年末年始6日は休業）

- | | | | |
|------------|------|------|-------|
| (1) 平均利用者数 | 0.1名 | （前年度 | 0.1名） |
| (2) 稼働率 | 0.7% | （前年度 | 0.4% |

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 平日の利用を促すことにより、稼働率の向上に努めました。(1-(3))
- (2) 利用者一人ひとりの個性や障害特性に合わせ、その人らしい生き方や自己実現の支援に努めました。また、その人に適した創作的活動や生産的活動を提供し、生活意欲の向上を図りました。(2-(1))
- (3) 生活介護を利用できない障害者に、日中活動の場を提供することで、生活に楽しみと潤いをもちながら安心して地域で暮らせるよう努めました。(2-(1))
- (4) 複数のサービスを利用しているケースや支援困難なケースについては、相談支援センターや地域関係者等と連携を図りました。(3-(1))
- (5) 経験や階層別、テーマ別の内部研修を開催し、専門的な知識や技術の習得に努め、実践力のある職員を育成することで福祉サービスの向上を図りました。(4-(4))

事業運営

1 利用状況（定員5名 月～土営業、日曜及び年末年始6日は休業）

- (1) 平均利用者数 1.4名（前年度 1.6名）
- (2) 稼働率 28.4%（前年度 31.2%）

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 平日の利用を促すことにより、稼働率の向上に努めました。(1-(3))
- (2) 一時的な見守り支援を行うだけでなく、その人に適した活動を提供することで、生活意欲の向上を図りました。(2-(1))
- (3) 一時的に支援が必要な障害者を受け入れることにより、家族の介護負担を軽減し、安心して地域で暮らせるよう努めました。(3-(1))
- (4) 関係機関との連携や協働を図るため、複数のサービスを利用しているケースや支援困難なケースについては、相談支援センターや地域関係者等との連携に努めました。(3-(1))
- (5) 経験や階層別、テーマ別の内部研修を開催し、専門的な知識や技術の習得に努め、実践力のある職員を育成することで、福祉サービスの向上を図りました。(4-(4))

事業運営

1 利用状況（定員なし 土日祝日、年末年始6日を除く）

(1) 計画相談（ケアプラン含）	675件	（前年度	601件）
(2) 障害支援区分認定調査	26件	（前年度	30件）
(3) 電話相談	1,559件	（前年度	918件）
(4) 来所相談	383件	（前年度	411件）
(5) 訪問相談	677件	（前年度	597件）
総計	3,320件	（前年度	2,557件）

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 地域生活支援拠点等事業を6月1日に開始しました。整備主体の2市1町との協議のうえ、障害者等の緊急事態に備えた24時間窓口の設置、緊急度の高い利用者情報の共有、並びに基幹相談支援事業所等の関係機関や受入事業所との連携体制を整えました。(1-(1))
- (2) 特定相談支援では、2市1町と協議のうえ、基幹相談支援事業所や他の事業所との分担等に関して、当事業所の位置付けを明確にした事業を推進しました。(1-(3))
- (3) 特定相談支援及び障害児相談支援が行う計画相談については、利用者や家族の意思及び人権を尊重し、常に利用者や家族の意向を踏まえたサービス等の利用計画を策定し、モニタリングによる検証等を行い、サービスの質を確保しました。(2-(1))
- (4) 相談記録、サービス等利用計画、モニタリング報告書、会議の記録等については、ケアカルテを活用する等業務の適正化や効率化に向けた見直しを図りました。(2-(3))
- (5) 尾張中部福祉圏域障害者支援協議会の事務局として運営会議や各種部会を行い、圏域内の事業所等のサービス評価や質の確保に向けた研修会の開催や障害福祉に係る情報共有等、地域で暮らす障害者等や家族が安心してサービスを受けられる活動を推進しました。(3-(1))
- (6) 愛知県相談支援体制整備事業における地域アドバイザー業務を受託し、障害福祉関係の地域情報や国の施策の動向等を圏域内外の関係者と共有することで、圏域の障害者支援協議会の活性化や相談支援体制の強化等に努めました。(3-(1))
- (7) 情報誌杜の風だよりを毎月発行し、地域の事業所や関係機関に対して障害福祉に関する情報発信に努めました。(3-(1))
- (8) 新型コロナウイルス5類移行に合わせて、施設内の交流ホールや多目的室の活用を再開しました。(3-(2))
- (9) 西春日井地域福祉の店に関わる事業所と連携し、相談支援等を含めた情報を発信しました。(3-(2))
- (10) ケース会議を毎週開催することで、業務の進捗状況の確認、事例検討等を行い、職員の資質の向上に努めました。(4-(1))
- (11) 業務内容を見直し、仕事の効率化を図りながら時間外労働の縮減や有給休暇の取得に努め、人材の定着を図りました。(4-(3))
- (12) 職員の専門性の向上を図るため、資格取得や資格更新、専門研修の受講等を推進しました。(4-(4))
- (13) 感染症や災害発生時の業務継続計画を策定し、安定的、継続的に相談業務等が行えるよう、利用者情報の整理及び職員体制を見直し、訓練を実施しました。(5-(1))

事業運営

○ 居宅介護事業

1 利用状況（定員なし 通年営業、年末年始6日を除く）

- (1) 利用者数 181名（前年度 204名）
- (2) 延べ利用時間 1,282.5時間（前年度 1,319.5時間）

○ 行動援護事業

1 利用状況（定員なし 通年営業、年末年始6日を除く）

- (1) 利用者数 48名（前年度 74名）
- (2) 延べ利用時間 303.0時間（前年度 314.0時間）

○ 重度訪問介護事業

1 利用状況（定員なし 通年営業、年末年始6日を除く）

- (1) 利用者数 10名（前年度 12名）
- (2) 延べ利用時間 267.5時間（前年度 440.0時間）

○ 移動支援事業

1 利用状況（定員なし 通年営業、年末年始6日を除く）

- (1) 利用者数 442名（前年度 335名）
- (2) 延べ利用時間 2,763.0時間（前年度 1,492.0時間）

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 新規の利用希望者を受け入れるため、サービス内容の工夫や変更を提案する等、収入基盤が安定するように努めました。(1-(3))
- (2) 利用者のニーズを的確に把握し、満足される支援計画の提案に努めました。また、新型コロナウイルス感染症の5類移行に合わせて、公共交通機関の利用、遊園地、スポーツジム等の外出支援を再開しました。(2-(1))
- (3) サービスを利用された方へのモニタリング調査を実施することで、利用者のニーズ把握やサービス満足度の把握に努めました。(2-(3))
- (4) サービス提供記録、個別支援計画等を職員間で確認し、常に日常業務の見直し及び改善に努めました。(2-(3))
- (5) 相談支援センターや地域関係者との連携に努めました。複数のサービスを利用しているケースや懸案ケースについては、特に関係事業所等と密に連携を図りました。(3-(1))
- (6) 居宅介護事業の内容を施設広報誌杜のたよりや情報誌杜の風だよりに随時掲載することで、事業内容等の情報発信を行いました。(3-(2))
- (7) 休日、同性介護、長時間の移動支援等の利用希望に応えられるよう、嘱託職員やパート職員の確保に努めました。(4-(2))
- (8) 業務内容の見直しや仕事の効率化に努め、時間外労働の縮減や有給休暇の取得し易い環境に配慮するなど、人材の定着を図りました。(4-(3))
- (9) 障害者支援の知識及び技術の習得のために、ヘルパー会議におけるケース検討や施設内外の研修を受講等することで、職員のスキルアップに努めました。(4-(4))
- (10) 感染症や災害が発生した場合でも、安定的、継続的にヘルパー業務等が行えるよう、サービス提供責任者が全利用者の概要を把握するとともに、利用者のフェイスシートや名簿の整理を行いました。(5-(1))

事業運営

1 利用状況（定員10名 通年営業）

- | | | |
|------------|-------|-------------|
| (1) 平均利用者数 | 9.4名 | （前年度 9.3名） |
| (2) 稼働率 | 93.9% | （前年度 92.5%） |
| (3) 平均支援区分 | 4.79 | （前年度 5.01） |

2 地域交流事業等

- | | | |
|----------|-----|-----------------------------|
| (1) 行事関係 | 5回 | （夏祭り、クリスマス、ハロウィン、記念祭、節分） |
| (2) 外出支援 | 30回 | （ドライブ、買物、喫茶、コンサート、美術展、清洲城等） |
| (3) 食事関係 | 2回 | （お楽しみ会、ティーパーティー） |

3 職員研修

- | | | |
|----------|-----|--------------------|
| (1) 外部研修 | 26回 | 延べ人数26名 |
| (2) 内部研修 | 16回 | （事例検討、虐待防止、感染症予防等） |

4 各種会議・委員会

- | | | |
|--------------|-----|------------------------------|
| (1) 定例会議・委員会 | 28回 | （こだち会議、感染症対策委員会、虐待防止対応検討委員会） |
| (2) 臨時会議・委員会 | 0回 | |

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 業務の効率化を図るため、支援の手順書を見直し、新規職員にも業務内容を分かり易くしました。(1-(1))
- (2) 体験利用希望者を積極的に受け入れることで、目標稼働率を達成できました。(1-(3))
- (3) 虐待防止対応検討委員会において日ごろの支援を振り返るとともに、利用者の怪我や痣を観察し、その原因や予防策を検討するなど、虐待の早期発見や防止のための体制作りを行いました。(2-(1))
- (4) 利用者の希望や障害特性に応じて作成した個別支援計画に沿った支援を行い、モニタリングで成果を確認するなど、本人のニーズに即したサービスが提供できるよう努めました。(2-(3))
- (5) 感染対策を取りながら、夏祭り・クリスマス会等の施設内行事を開催し、余暇の充実に努めました。また、コンサートや美術展など、芸術文化に親しむ外出も取り入れました。(2-(3))
- (6) グループホームで日中を過ごす利用者へ、運動や創作活動、園芸等の活動を提供しました。また、習字や折り紙等で壁面飾りを作成し、季節感が感じられるよう活動内容を工夫しました。(2-(3))
- (7) 利用者が安心して暮らすことができるよう、不具合は早めに修繕等を行い、安全な環境づくりに努めました。(2-(4))
- (8) 尾張中部福祉圏域障害者支援協議会運営会議においての、日中サービス支援型グループホームの評価は、問題なしとの評価でした。(3-(1))
- (9) かもだの里で行われた自治会主催の夏祭りに参加する等、地域住民との交流に努めました。(3-(2))
- (10) 話しやすい雰囲気を心がけ、私的な悩みも相談できるような職場づくりを進めることで、職員間の円滑なコミュニケーションを図りました。(4-(3))
- (11) 外部研修では、発達障害者支援研修や強度行動障害支援者養成研修に参加することで、必要な知識や資格を取得しました。また、内部研修では、福祉の杜の事例検討に参加し、支援技術の向上を図りました。その他、虐待防止の研修を定期的実施することで、職員の意識の向上を図りました。(4-(4))
- (12) 感染症対策委員会を開催し、感染防止に取り組むことで、利用者の新型コロナウイルスやインフルエンザの罹患を防ぐことができました。(5-(1))
- (13) 火災や巨大地震、水害を想定した避難訓練や消火訓練を実施しました。また、業務継続計画にもとづき、停電や断水時の炊き出し訓練を行うことで、職員の防災意識の向上に努めました。(5-(1))

事業運営

- 1 利用状況（定員1名 通年営業）
- (1) 平均利用者数 0.1名（前年度 0.0名）
 - (2) 稼働率 5.3%（前年度 0.0%）
 - (3) 平均支援区分 5.27（前年度 — ）
- 2 地域交流事業等
- (1) 行事関係 5回（夏祭り、クリスマス、ハロウィン、記念祭、節分）
 - (2) 外出支援 30回（ドライブ、買物、喫茶、コンサート、美術展、清洲城等）
 - (3) 食事関係 2回（お楽しみ会、ティーパーティー）
- 3 職員研修
- (1) 外部研修 26回 延べ人数26名
 - (2) 内部研修 16回（事例検討、虐待防止、感染症予防等）
- 4 各種会議・委員会
- (1) 定例会議・委員会 28回（こだち会議、感染症対策委員会、虐待防止対応検討委員会）
 - (2) 臨時会議・委員会 0回

重点取組項目（※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの）

- (1) 業務の効率化を図るため、支援の手順書を見直し、新規職員にも業務内容を分かり易くしました。(1-(1))
- (2) 緊急対応の利用者が少なかったことから、目標稼働率は達成できませんでした。(1-(3))
- (3) 虐待防止対応検討委員会において日ごろの支援を振り返るとともに、利用者の怪我や痣を観察し、その原因や予防策を検討するなど、虐待の早期発見や防止のための体制作りを行いました。(2-(1))
- (4) 利用中は、個々の希望に合った活動の提供を行い、休日においてもグループホーム利用者の活動に参加するなど、日々楽しく過ごすことができるよう気配りに努めました。(2-(3))
- (5) 家庭を離れる不安に配慮し、安全で安心できる生活環境の提供に努めました。(2-(4))
- (6) 地域生活支援拠点の相談支援専門員と連携し、家族の入院による緊急利用を2名受け入れました。(3-(1))
- (7) 相談支援事業所や市町と連携し、緊急利用後の調整等、それぞれのニーズに沿った支援を行うことで、円滑に地域移行できるように努めました。(3-(1))
- (8) 尾張中部福祉圏域障害者支援協議会運営会議においての、日中サービス支援型グループホームの評価は、問題なしとの評価でした。(3-(1))
- (9) 話しやすい雰囲気を感じ、私的な悩みも相談できるような職場づくりを進めることで、職員間の円滑なコミュニケーションを図りました。(4-(3))
- (10) 外部研修では、発達障害者支援研修や強度行動障害支援者養成研修に参加することで、必要な知識や資格を取得しました。また、内部研修では、福祉の杜の事例検討に参加し、支援技術の向上を図りました。その他、虐待防止の研修を定期的実施することで、職員の意識の向上を図りました。(4-(4))
- (11) 感染症対策委員会を開催し、感染防止に取り組むことで、利用者の新型コロナウイルスやインフルエンザの罹患を防ぐことができました。(5-(1))
- (12) 火災や巨大地震、水害を想定した避難訓練や消火訓練を実施しました。また、業務継続計画にもとづき、停電や断水時の炊き出し訓練を行うことで、職員の防災意識の向上に努めました。(5-(1))

1 事業種別

ネパール連邦民主共和国の関係機関等と連携し、研修事業の受託、講師の派遣等を通じて、介護職種の人材確保を行う事業

2 事業実績

ネパールへの講師派遣

(1) 派遣期間

令和5年11月26日(日)から12月25日(月)までの1カ月間

(2) 派遣場所

ネパール首都カトマンズ

Meihoku Training Pvt. Ltd (メイホクトレーニングセンター)

(3) 派遣職員

1名 事務局事業推進課 統括主任推進員(介護福祉士、日本語教師養成講座修了)

(4) 派遣内容

ア 令和6年度入国予定の技能実習候補生に対する介護の日本語授業の講師

イ 日本語入国必須資格である日本語能力試験N4取得支援授業の講師

ウ 入国確定者(N4取得者)に対する日本語能力向上支援授業の講師

(5) 授業の対象者

ア 令和6年4月入国予定の技能実習候補生(30名)10名×3クラス

イ 令和6年7月入国予定の技能実習候補生(25名)12名×1クラス、13名×1クラス

重点取組項目(※文末の数字は、行動指針の該当項目を示すもの)

- (1) 当法人が保有する福祉人材(介護福祉士の日本語教師)を1カ月間、現地へ派遣し、現地で勉強している技能実習候補生に対して、来日前に高齢者や障害者の介護に対する正しい知識と技術を伝えることができました。(5-(2))